

小名浜港東港地区国際物流ターミナル整備事業

石炭輸送効率化による電力安定供給で東日本を照らす

現在 now

将来 future

インフラ



現状、石炭取扱岸壁の水深は12m～14mまでの施設しかない

パナマックス船（7.8万ト）減載で輸送
輸送コスト2,618円/ト

新たに大水深岸壁（水深18m）を整備

大型石炭船が入港可能に（輸送コスト 約4割削減）



岸壁（水深18m）（耐震）

臨港道路（橋梁）整備状況（平成28年2月撮影）

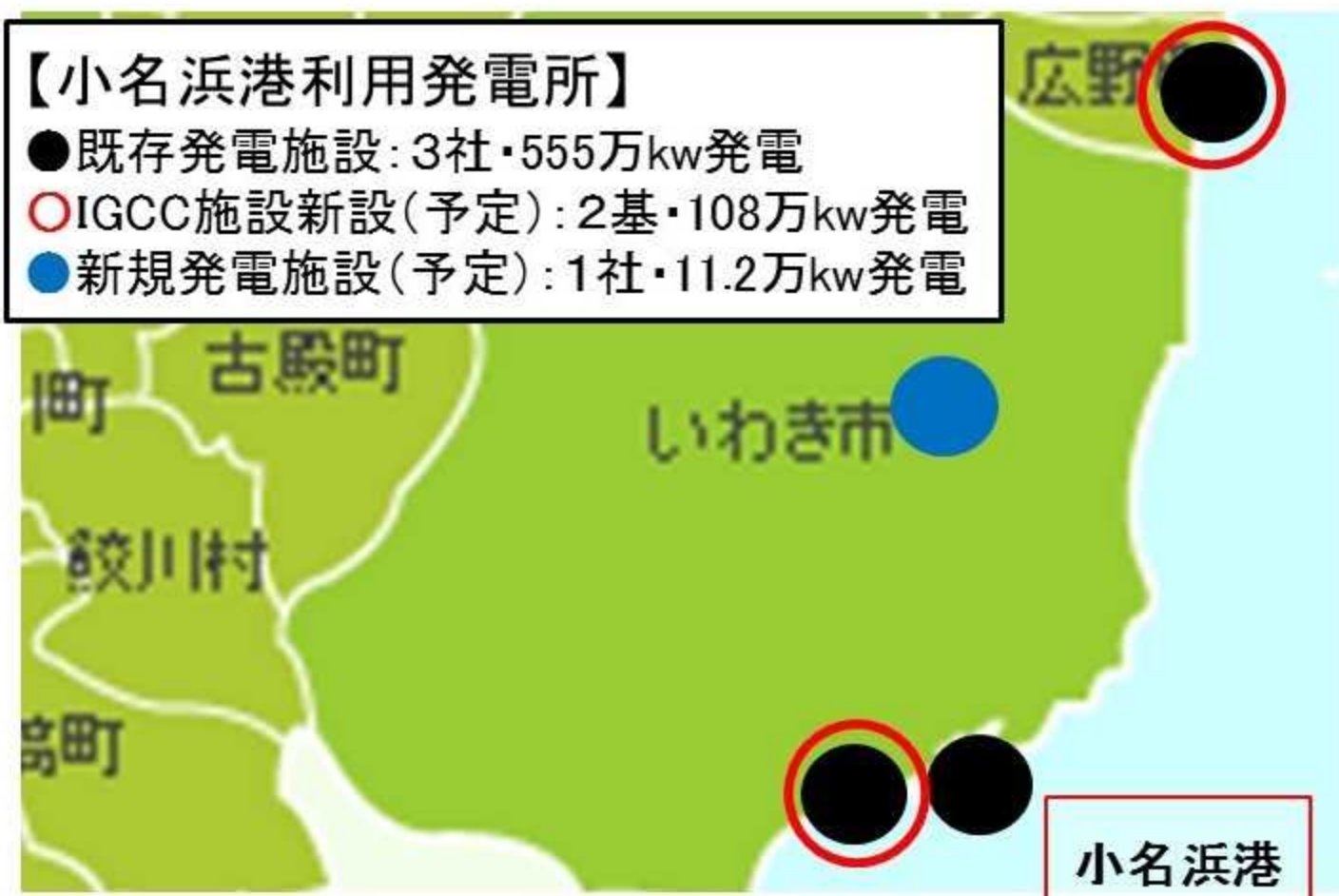


ケープサイズ船（12万ト）等満載で輸送
輸送コスト1,619円/ト

出典：国土交通省港湾局試算

平成30年度 完成予定

地域



【小名浜港利用発電所】
●既存発電施設：3社・555万kw発電
○IGCC施設新設（予定）：2基・108万kw発電
●新規発電施設（予定）：1社・11.2万kw発電

小名浜港を利用した最新鋭の石炭火力発電所の新規建設

最新鋭の石炭火力発電所設備（IGCC）



※写真はIGCC実証機

燃料供給拠点へ

大水深岸壁等の拠点的な整備により、大型船による安定的かつ効率的な石炭輸送が可能

震災後の平成25年11月には、東京電力（株）が最新鋭の石炭火力発電所設備（IGCC※）建設計画を発表

※IGCC：石炭ガス化複合発電（従来の石炭火力より高効率でCO2排出量も少ない）

雇用（最大2千人/日）の増加や経済波及効果（800億円程度）が見込まれており、地域経済の復興に寄与

